



プレイドウ 通信

2023年11月25日発行

発行者：NPO 法人日本プレイ
センター協会理事長
佐藤 純子
無断複製はご遠慮ください。

佐藤純子理事長ごあいさつ

「常盤平プレイセンターに学ぶ子育て連続講座」について

暖冬の11月で、年末が近づいていることを実感できない日々を過ごし、あっという間に12月を迎えようとしています。もう冬号の発行の時期か！と正直、驚いております。今号の巻頭言としては、これまでの事業を振り返ってみたいと思います。

今年度は、佐藤が流通経済大学に移ってから2年目を迎え、千葉県松戸市でもプレイセンターが展開できないかと考え、7回の連続講座を企画しました。講座の会場は、常盤平市民センター。流通経済大学が地域連携の拠点として力を入れている常盤平団地に隣接しています。夏から開始し、すでに6回が終了。残すところあと1回となりました。

第1回目は、7月25日(火)「プレイセンターってなあに？」をテーマに佐藤がお話をしました。プレイセンターについて知らない方が多かったため、プレイセンターの「家族で成長する親子の活動」という点に魅力を感じるとの声が多くあがりました。

第2回目は、8月22日(火)「気になる子どもの発達とサポート」で、講師は矢治夕起さん(理事)。プレイセンターでは、子どもたちの様子を見守る親たちがいるため、無理に気になる子どもの行動を止めるのではなく、その子への寄り添い方を学び、応答できるようになることが重要であると確認しあいました。

第3回目は、9月12日(火)「子どもを観察してみよう」の講座で、永易江麻さん(理事)が講師を担当しました。講座では、実際に撮影した、子どもが遊ぶ様子のビデオを使って、観察実習をしました。参加者同士で共有することで、多様な視点の交わりから新たな気づきがあることを発見しました。

第4回目の9月26日(火)は、「ニュージーランドにおける実践」の講座を開催しました。講師は、ニュージーランドのプレイセンターをご経験された林浩子さんです。プレイセンターでの参加効果について、子どもたちにとっては、柔軟性や想像力、思いやり、社会性、言語力が獲得できたこと。林さんご自身にとっては、地域とのつながりが深まったことや子育てに対する自信がついたことが語られました。

第5回目は、10月18日(水)「プレイセンターの学習会を体験してみよう」をテーマに北九州と松戸をつなぎ、プレイセンター活動の柱の一つ、親の学び合いの時間を共有しました。この時のファシリテーターは、理事の岩丸明江さんと中村智香子さん。受講者が小さなグループにわかれ、「きくーはなす」を意識し、ブルーテキストを使い、学びを深めました。

第6回目は、11月7日(火)「親の協働を地域で支える」をテーマに足立隆子さん(副理事長)にお話しいただきました。講座では、2002年から続いているプレイセンター・ピカソの活動を中心に、一人ひとりの個性を大切にすることは、主体的な運営に欠かせない要素となり、持続可能な活動に繋がっていくこと。そして、親も子も主体性が身に着くことで、地域を豊かにすることができると語られました。



第4回 ニュージーランドの林浩子さんと



第5回 プレイセンターの学習会体験

毎講座、プレイセンターの特徴や良さをたくさん紹介でき、参加者からは「子どもが遊びや学びの主体になることはこれまでも意識してきた。だけど、親も主体的になることが大切であることを初めて認識し、考えることができた」等の感想が寄せられました。

講座運営で苦労したことは、やはり講座の切り盛りでした。プレイセンターに興味を持ってもらう導入部分の講座運営の難しさを感じました。私も「エマージェント・リーダーシップや協働ってなんだろう？」と改めて考え、自身とっても大事な学びの時間となりました。

最終回の11月29日（水）は、「プレイセンターをやってみますか？」を含めた作戦会議の場になります。そこで、改めて松戸地域での活動の可能性を探りたいと思っています。さらに、2024年1月21日には、スーパーバイザー養成講座を開催（予定）し、松戸市でのプレイセンター活動を一緒に支えるくれるお仲間を増やしたいと思っています。小平会場での同時開催、オンラインでも受講可能とする計画ですので、ご興味があるメンバーの方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加のお呼びかけをよろしくお願い致します。ご案内は、後日、お知らせいたします。今年もありがとうございました。

2023年8月21日（月）SV交流会の学び

テーマ 「学びあいの工夫」

スピーカーに、まりこさん（にじっこ 宮田真理子さん）、やよいさん（かんがる～山口弥生さん）をお迎えして、みんなでお話をうかがいました。

1. 学びあいのスタイル

*にじっこ：保育なしで、半分に分かれて預けあって40分ずつ。時には同室で子どもを遊ばせながらやります。冒頭に、新しいメンバーがいる時は、その日の目的を伝えます。「コミュニケーションの練習の場」「お互いを知り合う」「自身の子育てを振り返る時間」になっています。

*かんがる～：10数年、いろいろな形でやってきて、毎年、形がちがいます。保育に預けるときの、半々にわかれるときも、その年にあったやり方で。

また、他プレイセンターでは、「託児をがつつりつけて、2時間、大人だけで学ぶ（修了生が有償で託児）」「遊びのセッションのすみっこで、2・3人とSVが学びあい（30

分くらい)」「遊びのセッションのしつらえをして、全部のメンバーが1時間くらい、同室で学びあい（修了生など2・3人が全体を見守り)」など色々な形式がありました。

2. ブルーテキストの使い方

*かنگる～：順番に読み合わせて、目にして口にだして、耳からきいて考えを共有します。少ない人数で、意見が出せない人も出やすいように心がけます。

*にじっこ：まずは、話しやすいお題で一周してからはじめます。年間予定にいらています。テキスト2, 6は工夫が必要だと感じています。身近に感じられるような問いをたてるようにしています。

3. テキストをはなれたテーマで

- ・(かنگる～) 助成金で外部の大物の講師をお呼びする、メンバーによる一芸講座や、かنگる～の歴史を話す企画、また、講座でなくて、メンバーが悩み相談をしたりますこともあります。
- ・(にじっこ) 子どもの権利をテーマに、年に1回は必ず、ユニセフのカードを使うなどして学びあいをします。

「ブルーテキストを年間計画にいらているのはいい」「社会資源を活用したりなど、新鮮なテーマがあつた」「一年ではなかなかブルーテキストが終わらない」などの感想も寄せられました。

企画担当者としては、まりこさん、やよいさんといろいろ相談して準備していくのが楽しかったです。オンラインでは、「もうすこし聞きたい、ここはどうなっているのかな？」という感覚もありますが、事後、直接メールでやりとりしてもいいので、SV同士、ヒントになり、助け合う機会にもなつたら、とてもうれしいです。(レポート 理事 岩丸 明江)

